第 96 回　フランスの絶対王政

1　フランスの絶対王政

・フランスでは、1589 年にヴァロワ朝が断絶した。
　→同年に（　　）が即位し、（　　）が成立していた。

◆（　　）（在位 1610～1643 年）
・王権が強化されたため、1615 年以降（　　）となった。
・宰相の（　　）の補佐により、貴族の勢力を抑えた。
　→（　　）という学術研究団体を設立し文化統制も目指した。
　→1635 年には、反ハプスブルク家の立場から、カトリック（旧教国）でありながら新教側で（　　）に介入した。

ルイ 13 世

アンリ4世が、狂信的なカトリックに暗殺されたため、9歳で即位した。
22 歳でハゲるなど、いろいろ苦労の多い人である。

宰相リシュリュー

枢機卿としてルイ 13 世を補佐し、貴族の力を抑えることに尽力した。貴族からの恨みを買うことも多かったという。
「国家の敵は私の敵」

映画『三銃士』

デュマの小説『三銃士』では、リシュリューが最大の悪役となっている。
写真は 1993 年にディズニーが制作した映画『三銃士』。

2　ルイ 14 世とその時代

ルイ 14 世
華やかな宮廷政治を行ったが、実はいろいろあって歯が1本もなかった。

◆（　　）（在位 1643～1715 年）
・５歳で即位したため、宰相の（　　）が補佐した。
　→1648 年、王権強化に不満を持つ高等法院や貴族が（　　）を起こしたが鎮圧され、王権は絶対的なものとなった。
・1648 年の（　　）では、神聖ローマ帝国からアルザスなどを獲得し、フランスのハプスブルク家に対する優位を決定づけた。
・1659 年、スペインとピレネー条約を結び、スペイン王女と結婚した。

・1661 年、宰相マザランが死ぬと親政をはじめた。
　→王権神授説を主張する（　　）を重用した。
　→「　　」と言ったとされ、（　　）と呼ばれた。

・パリ郊外に豪華で華麗な（　　）を建設した。
　→（　　）式を代表する宮殿であり、貴族や芸術家が集められた。
・（　　）、（　　）、（　　）などが制作した古典主義の戯曲が、ヨーロッパ中で人気となった。

宰相マザラン

当時貴族は、高等法院という司法機関を拠点に、王権拡大に抵抗していた。フロンドの乱は、王権強化をはかるマザランに対する反発から起こった。

ヴェルサイユ宮殿

ルイ 14 世は、パリから 20 キロほど離れた場所に、ヴェルサイユ宮殿を建設し、そこに住んだ。晩餐会や舞踏会が毎晩のように行われ、数々のエチケットやテーブルマナーを生み出した。

モリエール

フランス古典主義を代表する喜劇作家。40 歳の時に 20 歳年下の女性と結婚したが、「実の娘だったのではないか？」という疑惑がある。

財務総監コルベール
コルベール主義とも評される重商主義政策を推し進めた。その資金で、ルイ 14 世は戦争を行った。

3　ルイ 14 世時代の対外進出

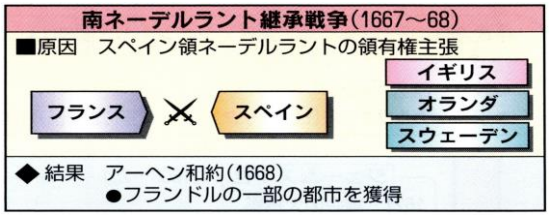
・財務総監に（　　）を起用して財政をととのえ、イギリスやオランダに対抗して重商主義をおしすすめた（貿易差額主義）。
→特権マニュファクチュアを設立し、毛織物を生産・輸出した。

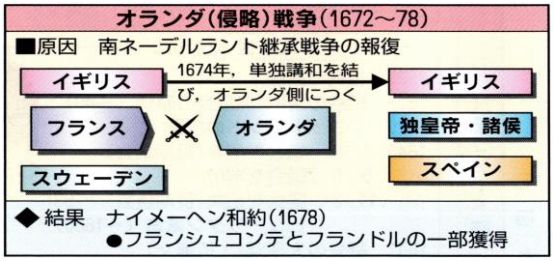
・コルベールは（　　）を再建し、海外進出を行った。
→インドでは（　　）や（　　）を拠点とした。
・ラ=サールは、北アメリカに（　　）植民地を建設した。

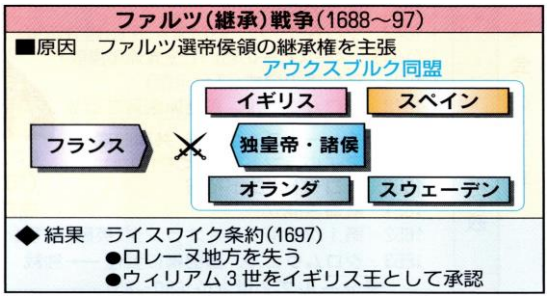
4　ルイ 14 世時代の侵略戦争と財政難

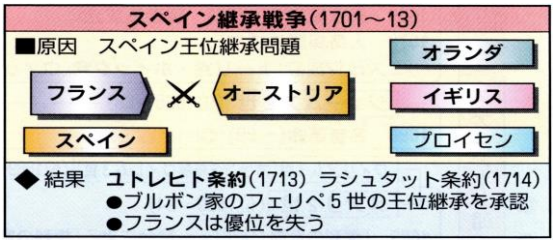
・ルイ 14 世は、領土の拡大を狙って自然国境説を主張し、対外侵略を始めた。
→（　　）、（　　）、（　　）などの戦争に介入した。

・1700 年、ハプスブルク家のスペイン王カルロス 2 世が、後継ぎを残さずに死んだ。
→ルイ 14 世はスペイン王位を狙い、（　　）を起こした。
→1713 年、（　　）によって戦争はほぼ終結した。
→ルイ 14 世の孫の（　　）がスペイン王となることが承認された。
※ただしニューファンドランド・アカディア・ハドソン湾地方をイギリスに譲った。
→1714 年、ラシュタット条約でスペイン継承戦争は完全に終了した。









・相次ぐ侵略戦争により、フランスは極度の財政難となった。
・1685 年、（　　）により、ユグノーの国外流出を招いた。
→フランスの産業発展を阻害し、財政にさらなる打撃を与えた。

ルイ 15 世
ルイ 14 世のひ孫。愛人の政治介入を許し、政治は乱れた。

◆（　　）（在位 1715～1774 年）
・イギリスとの植民地戦争を続けたがうまくいかず、財政難に苦しんだ。